

# 67回卒 東京校・新潟校 合同クラス会

爽秋の平成28年10月22日（土）、母校の創立110周年記念式典が開催された「帝国ホテル孔雀南の間」にて、午後5時30分より67回卒 東京校・新潟校合同クラス会が開催されました。当日の出席数は、ご来賓3名、東京校56名、新潟校34名の併せて90名でしたが、その他、会には出席せず協力金だけの人が52名もおり、大変心強く有難く感じました。

はじめに、中原 泉 理事長・学長・校友会会頭、近藤勝洪校友会会長、関本恒夫新潟生命歯学部長を来賓としてお迎えし、和やかな笑顔のなか、参加者全員で写真撮影をしました。

その後、クラス会会場のドアオープンに合わせて全員が入場し、来賓の方々は来賓席へ、またその他の方々は抽選で決められたテーブルに着席し、石島弘己君（新潟校）と間下政子さん（東京校）の司会にて



会が進められました。

まず物故者（東京校23名、新潟校13名）への黙祷を捧げました。黙祷の間、亡くなられた同級生の若い頃の元気そうな顔が次々と浮かびました。

開会を石川祥一君（東京校）が宣言し、稲垣明宏君（東京校）により、この合同クラス会が開催に至るまでの経過が説明されました。



67回卒 東京校・新潟校 合同クラス会 平成28年10月22日 於 帝国ホテル



来賓のご挨拶は、初めに中原理事長より、昭和47年頃の東京校の様子、開校当初の新潟校の様子、また新潟校が卒業生を送り出すにあたり、東京校に合わせ「67回卒」という共通の卒業回数にする一を決断したときの経緯と、各都道府県校友会へ「東京校と新潟校は共に卒業生はひとつ」の意義を傳達したときのお気持ちなどお話ししていただきました。また近藤会長からはこの合同のクラス会の意義や今後の発展について、関本学部長からも温かいお言葉をいただきました。

乾杯の挨拶は藤井達士君（東京校）が行い、全員の乾杯のあと東京・新潟両校の懇親が始まり、弾んだ会話や和やかに会話する風景が見られました。110周年創立記念祝賀会がビュッフェ形式で洋食だったため、このクラス会では帝国ホテル「なだ



万」の和食を中心とした心尽くしの料理が出て、その味に舌鼓を打ちました。

懇親会ではスライドショーが行われ、東京校とその周辺の今昔を石川祥一君（東京校）が、新潟校とその周辺の今昔を村田昌明君がそれぞれ解説しました。また数名ではありますが舞台上から近況報告なども行われ、東京・新潟ともに同期であることの心安さから、すぐに打ち解け、話し声や笑い声が大音響となりました。皆、外観は変わっても喋り始めれば一気に学生時代に戻ってしまいました。

会の終わりは山本喜三郎君（新潟校）が三本締めを行い、宇野清博君（新潟校）の閉会の辞で散開となりました。

閉会後も、ロビーでは各所で握手しハグをし、肩を抱き合う姿があちこちで見られました。

稿を終えるにあたり、ご参会いただきましたご来賓の方々、また本会を開催するにあたりご尽力いただいた実行委員会の皆様に心より深謝いたします。

なお、東京校クラス会は卒後45周年に千葉県が幹事で、また新潟校は今までどおり2年に1度の間隔で行う予定です。

(67回有志 記)